

持続可能な社会に向けた地域づくり

50年後、100年後も豊かな暮らしを送るような持続可能な社会を目指すにはどのようにしたらよいか、考えてみましょう。

地域の資源を活用した地域づくり

世界中が持続可能な社会となるためには、日本をはじめとする世界各国が、そして、日本の各地域が持続可能な社会となる必要があります。

地方には、豊かな自然やそこから得られる自然のめぐみ、農山漁村の伝統文化や田園風景などの様々な「資源」があります。都市には、人材やお金、都市ならではの文化、都市の景観などの様々な「資源」があります。つまり、その地域のもつすべてのものが資源だと考えられます。

各地域に目を向けてみると、その地域が持つ様々な資源があることがわかります。各地域が持続可能であるためには、人やモノ、お金といった、各地域が持っている様々な資源を、できるだけ地域の外に出さずに、それぞれの地域の中で循環させ、経済・社会活動においてそれらを最大限に活用することが必要です。こうした循環は、地域の経済・社会を元気にし、環境だけでなく、経済・社会の課題の解決に役立つとともに、各地域の自立にもつながると考えられます。



資料：静岡県藤枝市



さらに、それぞれの地域は周辺の地域どうしで支え合うことが重要です。

例えば、河川の流域内の人々は互いに、河川の水やその水を育む森林などの森里川海のつながりを守り、そのめぐみを分かち合うことで、豊かな暮らしを維持してきました。将来にわたって自然のめぐみを受け続けるためにも、流域全体で広域的に地域どうしの連携をすることが重要です。

特に、都市と地方はお互いにはないものを持っているため、地方で作ったエネルギーを都市で使う、地方の自然の恩恵を受けている都市で働いていた人がその能力を生かして地方ならではの仕事を始める、都市の住民が地方での自然保全活動に参加するなど、いろいろな形で支え合うことができます。

このように、環境対策で地域を元気にするような取組が行われている圏域を「地域循環共生圏」と言います。

そして、人間も自然の一部です。地域資源を生み出すもとになる自然と対立するのではなく、自然と共に暮らし(共生)しながら地域資源を活用(循環)していくことは、結果として無駄がなく、効率的で温室効果ガスも減らす仕組みづくりにつながります。このような仕組みは、生きものの世界の仕組みに学ぶところも多く、これが進んだ持続可能な社会を「環境・生命文明社会」と言います。

